

組織・グループ名	NPO法人 まんま
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般助成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①当事者支え合い・当事者支援の促進</li> <li>②地域福祉ニーズ(課題)への対応</li> <li>③福祉の学び(参加型福祉教育)の推進</li> <li>④福祉コミュニティの構築</li> </ul> </li> <li>● 協働事業助成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動</li> <li>2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動 ]</li> </ul> </li> </ul>
助成事業名	子どもの育ち相談日「ぼれぼれ」

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。

【親子の居場所で相談の場の実施】

■ひろば内での相談

主に0~3才児連れの親子が集うひろばはコロナ禍で人数制限による予約制の中、地域で発達障害理解啓発活動を実施しているグループから先輩ママをピア相談員として配置した。子どもを遊ばせながら、雑談から子どもの発達で気になる事や不安を気軽に話し、相談できる場を提供。障害の有無に関わらず、同じ悩みを持つ親同士の交流や情報交換の場にもなった。



■個別相談

別室で個別にピア相談員と話せる場を提供。現在通っている園や学校生活での悩みや進路についての相談が多かった。先生への対応や、必要に応じて専門機関での相談、クリニックで相談が出来るなど伝える事が出来た。

■最近では復職する親が多く、地域での子育て期間が短い傾向がみられる。そのため利用者との関係性を作りながら、地域で気軽に不安や悩みが相談出来る場としてまた、成長してからも相談が出来る場であることをしっかりと伝えていきたい。

【オンライン勉強会を実施】

■テーマ「小学校期の過ごし方」(学齢期を過ぎてわかったこと)

講師：地域の発達障害理解啓発グループより、相談員でもある先輩ママ  
 ・参加者は区内からと他区からの参加も多く、アンケートより全員から参加しやすかったとの回答があった。講座は「学校に対する心構えを知れた」「丁寧な説明で勉強になった」「自宅で勉強会に参加できて良かった」など、満足度は高かった。今回の実施でオンラインの必要性も実感できたので、今後もオンラインでの勉強会を検討したい。



【スタッフ研修】

- ・他区での取組「子どもの発達が気になる親のおしゃべり会の場」の見学。
- ・オンライン勉強会受講「ASD・ADHDに合併しやすい睡眠の問題とマネジメント」「てんかんの研修会(知っておきたい、てんかんに関連する精神状態)(正しく知って、てんかん)」

【地域のネットワーク(障害者自立支援協議会など)】

・交流会は2回実施。内1回参加、1回は中止となった。交流会では同じ地域内で活動している他団体と今回初めて交流し、つながる事が出来た。